

事務事業マネジメントシート (21年度実績と22年度計画)

22年度予算確定後 平成 22 年 3 月 25 日 作成
21年度決算把握後 平成 22 年 月 日 作成

事務事業名		須屋城跡発掘調査事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連								
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	教育委員会事務局	課長名	高木 敏明					
	施策	22	歴史・伝統・文化を活かした郷土愛の醸成			所属課	生涯学習課	担当者名	浦田 信智					
	基本事業	76	歴史・伝統・文化(文化財)の保護			所属班	生涯学習班	(内線)	2421					
予算科目	会計	1	款	10	項	5	目	1	事業連番	10917	法令根拠	文化財保護法	成果優先度評価結果	8
												コスト削減優先度評価結果	6	
終了、開始年度	☐ 21年度で終了 ☐ 22年度から開始		事業期間		☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返(開始年度 年度)		☒ 期間限定複数年度 (H13 ~ H23 年度)							

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	中世(南北朝から室町時代)の遺跡である須屋城跡の発掘調査 平成13年度から国交省の熊本北バイパス建設予定地が埋蔵文化財の包蔵地であったため、国からの委託を受け工事に先駆けて発掘調査実施した。 発掘調査の進行が進むと同時に北バイパスの工事が進み、予定通り共用が開始された。
【業務の流れ】	現場発掘調査および整理作業(土器復元、実測、製図等)発掘調査補助業務の委託、報告書の作成、遺跡の周知
【主な予算費目】	報酬、需用費(消耗品費)、役務費
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	国(国土交通省)は、平成19年度末に北バイパス共用開始の為、調査を早急に完了してほしいとのことであった。現場調査が予定通り終了し、工事も当面の目標分は無事に終了した

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標

① 半段(主な活動) 21年度実績(21年度に行った主な活動)(DO)	22年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
須屋城跡の発掘調査(整理作業)	
④活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標	(単位)
⇒ ア 発掘調査面積	㎡
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	⑤対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位)
須屋城跡のうち開発行為に係る部分	⇒ ア 調査すべき須屋城跡の面積
⇒ イ	㎡
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	⑥成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位)
発掘調査し、記録保存される	⇒ ア 調査すべき須屋城跡の面積のうち調査及び記録保存できた面積の割合
⇒ イ	%
*⑥成果指標設定の理由と平成22年度目標値設定の根拠	

(2) 各指標・総事業費の推移

	単位	19年度 実績(決算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	21年度 実績(決算)	22年度 目標(当初予算)	23年度 予定	24年度 見込
④ 活動指標	ア ㎡	16,378	16,396	12,817		12,817	12,817	
	イ 人							
⑤ 対象指標	ア ㎡							
	イ							
⑥ 成果指標	ア %							
	イ							
投資 入 量	国庫支出金	千円	24,900	24,900	24,900	24,900	24,900	
	都道府県支出金	千円	6	6	2	2	2	
	地方債	千円	24,900	24,900	24,900	24,900	24,900	
	その他	千円						
	繰入金	千円	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	一般財源	千円						
	(A) 事業費計	千円	49,807	49,807	49,803	0	49,803	49,803
	(A)のうち指定経費	千円	8,387	8,470	8,541	8,541	8,541	
	(A)のうち時間外、特勤	千円						
	正職員従事人数	人	2	2	2	2	2	
人件 費	延べ業務時間	時間	960	1,100	960	960	960	
	(B)人件費計	千円	3,811	4,400	3,821	0	3,821	3,821
	トータルコスト(A)+(B)	千円	53,618	54,207	53,624	0	53,624	53,624

総トータルコスト
 全体計画
 H13 ~ H23 年度
 (期間限定複数年度のみ記載)
 0
 0
 0
 0

谷志市

事務事業名	須屋城跡発掘調査事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	------------	-----	----------	-----	-------

2 評価の部 (SEE)

※原則は21年度の後評価、ただし複数年度事業は21年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①21年度目標達成度評価 事務事業の前年度実績は前年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☐ 達成した	☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	②22年度目標達成見込み 事務事業の本年度目標値に対して本年度の見込みはついているか？	☐ 目標達成見込みあり ⇒【理由】	☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】	☒ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】	☒ 公平・公正である ⇒【理由】
	⑧行政の役割分担の適正化 事務事業のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行出来ないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】	☐ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括(SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

--

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善) ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善) ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持																					
	低下																					
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 今後、この事業と類似した状況になった場合は、事業主との事前協議を密にすることで、調査内容に見合った調査期間をとることが必要と思われる。																						